

仏教福祉研究における歴史・問題・課題について

菊池 結

仏教福祉¹⁾に関する研究は、当時は「仏教福祉」という名称では無かったものの、古くは1912(明治45)年に、浄土宗の僧侶であった渡辺海旭を中心に東京在住の社会事業に関心をもつ仏教徒によって設立された仏教徒社会事業研究会の設立がその始まりであると考えてよい。同研究会は、浄土宗労働共済会に事務局を置き、毎月1回の例会を開きながら、研究・調査および情報交換と親睦を図っていた。その後、仏教福祉に関する研究は、仏教徒社会事業研究会を中心に盛り上がりを見せたものの、第二次世界大戦中は中断され、本格的な研究の再開は1966(昭和41)の日本仏教社会福祉学会の設立を待たなければならない。また、2005年には日本仏教社会福祉学会編集の『仏教社会福祉辞典』が刊行され、仏教福祉と仏教社会福祉それぞれの定義づけがなされ、ながらく問題となっていた仏教福祉とは何かという定義の問題に対して決着が着いたように思えた。

しかしながら仏教福祉研究は、いまだに多くの課題を残している。例えば、その始まりをいつに求めるのか、仏教福祉の学問領域はどこか(現在では、学際的協力の動きが強くなりつつあるが)、その固有性や独自性とは何かなどである。特に、発表者の興味関心から言えば、いまだに仏教福祉史としてなめらかなつながりを持つ日本仏教福祉史の構築はなされていないように思えるのである。吉田久一は、西洋と日本の社会事業史を比較し、「西洋社会事業史には連続性が濃厚であり、日本社会事業史にはそれが希薄なこと」(吉田、2001:p6)を指摘している。発表者は、以上の吉田の指摘は、仏教福祉史研究においても同様であると考えているのである。

したがって本発表では、日本仏教福祉を仏教伝来以後から現代までのつながりある思想史として捉えたい。さらに言えば、そのつながりはちょうど波線グラフのように上がり下がりがあり、その時代のさまざまな要因によって頻繁に社会活動が見られたり、静まったりする時期はある。近代に関して言えば、渡辺海旭を中心とする明治後期から昭和初期に、大きな盛り上

がりを見せ、戦後に日本仏教社会福祉学会の設立とともに、再び盛り上がりを見せている。さらに現在では、「宗教の社会貢献」をキーワードに、仏教福祉の研究もその重要性を増している。したがって、現代と仏教福祉の問題を考えるためにも、過去から現在へのつながりを持つ日本仏教福祉史を構築し、それらから同時代の共通性を見出すことで、現代における「仏教福祉」とは何かといったことを論じていくことが肝要である。

本発表では、つながりを持つ仏教福祉史を構築し、さらにはそれらの社会的な活動から同時代の共通性を見出すための課題を提示する。

→なめらかなつながりを持つ日本仏教福祉史構築のために

西洋社会事業史と日本社会事業史を比較してただちに気づくことは、西洋社会事業史には連続性が濃厚であり、日本社会事業史にはそれが希薄なことである。(吉田、2001:p6)

→吉田の指摘。仏教福祉史研究においても同様だろうか？

【課題1】資料の制約について

- ・資料が無い
- ・特出したカリスマではなく、名も無き人から作り出される歴史をどのように探るか

【課題2】明治以後～戦前までの仏教福祉史年表の作成について²⁾

- ・明治・大正・昭和初期(戦前)の仏教福祉史(論文/事績)の編纂

【課題3】伝統的な3領域(人文科学・社会科学・自然科学)における研究方法への学際化について

- ・仏教福祉研究は、仏教、社会福祉、現場のスタッフ、僧侶など多方向からの考察が必要である
- ・イギリスにおける宗教教育研究の流れ→神学、宗教学、民俗学、教育学、現場の教師等異なる分野の専門家がチームとなる研究へ³⁾
- ・宗教学におけるアクション・リサーチアプローチの応用の高まり
- ・ナラティブ・アプローチ(対話的構築主義アプロー

チ、桜井厚)による、より広い仏教福祉理解へ

註

- 1) 仏教福祉／社会事業／社会福祉の概念は、現在でもやや曖昧である。ここでは、渡辺海旭を中心とする明治から昭和初期の仏教者の社会活動を、吉田久一の区分を用いて大正中期から昭和初期の活動、つまり「仏教社会事業」と呼ぶ。しかし、筆者はより包括的な意味を込めて、それらを含めた仏教者の社会的な活動全体を「仏教福祉」としたい。
- 2) 戦後に関しては、長谷川匡俊編『戦後仏教社会福祉事業史年表』などのすぐれた業績がある。
- 3) David Lundie, "Does RE work?'An analysis of the aims, practices and models of effectiveness of religious education in the UK"
British Journal of Religious Education
Vol.32, No.2 (March 2010)
(大学院仏教学研究科博士後期課程仏教学専攻)